

●優良賞（財団法人農村開発企画委員会理事長表彰）

ちくせいかつけんきゅう れんらくきょうぎかい
いわき地区生活研究グループ連絡協議会

（福島県 いわき市）

郷土食の伝承を地域に“つくる・食べる・買う”の発想

◇活動の経緯、内容

この事例は、いわき地区で活動する生活研究グループの連絡協議会内に設置された地場消費部会が実践する「いわき郷土食をつくる会」の活動である。

長年の生活研究グループ活動で培ってきた技術と情報を市民に提供すること、手作りの味、本物の味を地域に伝えること、女性農業者・生活者の立場から、安心・安全で美味しい食の提供を実施すること、に活動の重点をおき、市のイベントやアンテナショップでの農産加工品の販売、研修会・講習会等への参加、そして当番グループによる「いわき郷土食をつくる会」の開催などに取り組んでいる。



毎月開催される「いわき郷土食をつくる会」では、つくる体験（調理）、味わう体験（試食）、買う体験（食材購入）、と称した各種体験メニューを企画し、毎回多くの消費者が参加、グループ員との交流を図っている。

地域の郷土食の伝承だけでなく、食の大切さ、農村女性の持つ知識や技術の伝承等、農業・農村の持つ奥深さを広く伝える活動であり、またグループ員もこの活動を通じて自らの能力発揮や新しい分野へのチャレンジを実現するなど、今後、ますますの活躍が期待されるものである。

◇代表作品の紹介

郷土食の伝承を地域に“つくる・食べる・買う”の発想：

体験メニューで扱われる料理は、地場産の野菜を使った地域の伝統食や年中行事食が中心で、消費者にそれらを味わい、覚えてもらうことが、食の伝承につながっている。春は山菜、夏はとりたて野菜、秋は新米やキノコ、といったように、四季折々の食材を使ったメニューの提供を心がけている。

